

Eureka XI

六年制通信 No.21 令和5年10月13日(金)号

細部に目を向けるクセをつける

どの教科でも言えると思うのですが、苦手な人には細かいところまで目が届いていないという共通点があるのではないのでしょうか。ちゃんと最後まで読んでいないとか、英語であれば a でも the でも、あるいは無冠詞でも気にしない、単数でも複数でもどちらでもいい、能動態でも受動態でも関係ない、とにかく知っている単語の意味だけで文章を推測して適当にわかってしまう、そんな感じがします。適当にわかってしまって、部分点などをもらうから余計始末に負えないのですね。英語など、ちょっとした綴りの違いで全く違う意味になったりするわけですから、適当に読んでいてはいけません。細かいところに気がつかなければ正しく理解できません。昔、文章の一語一語に徹底的に解説を加えるという「古谷メソッド」という英語の読解本が流行りましたが、今読んでも非常に説得力のあるものです。でも今は絶版でしょうなあ。

ところが面白いことに、日本語を習う外国人にとっては、日本人は語学の天才ではないかと思えるらしいですよ。非常に細部にわたって変化していく語を普通に用いているのだから、と。よく例に出るのが「日」という漢字です。雨の旦、三月三旦、祝旦、旦曜旦、旦記、これら下線部は順に「ひ」「か」「じつ」「にち」「び」「にっ」ですが、これらをこともなげに使い分けているわけですから、そりゃ驚きますわな。我々としてはただ慣用的に使っているだけですから、何故そう発音するのかと聞かれても答えられません。確かに不思議ですよ。そもそも国名の発音が二つあるというのもどうかと。日本は「にほん」でも「にっぽん」でもいいことになっていますが、これもまた珍しいのではないかな。ちなみに「にっぽん」の「にっ」を「じつ」と発音すれば「じっぽん」となり、ジパング、そしてジャパンに繋がっていきそうですね。もう少し続けると、一日、一昨日、昨日、今日、明日、明後日などは「ついたち」「おとつい」「きのう」「きょう」「あした」「あさって」なのですから、もはや「日」を何と発音しているのか不明です。これもまた、私たちは平気で使っていますよね。天才かも。ですから、日本語を使っている私たちは、少なくとも言葉に関しては、ほんの少しの違いによく気がつくはずなのですが、皆さん、そう思いませんか。ついでながら、昔将棋の米長邦雄さんが名人になられた時扇子に「日月無心」と揮毫されました。これを「たちもりむしん」だったか「たちもちむしん」だったか、そんな読みをすると何かで読んだ記憶があるのですが、出典を忘れてしまいました。どなたかご教示ください。

今思い出したのですが、外国人の日本語エピソードで笑ったのがありました。何かの舞台上でライトの調節をしていた日本語勉強中のアメリカ人が日本人に、明るさはこ

れくらいでいいかと聞いたのですね。そうしたら日本人が「う～ん。気持ち明るくお願い」と言ったと。アメリカ人は、この「気持ち」がわからない。まさか「ほんの少し、もうちょっと」の意味だとわかるわけがない。それで困ったアメリカ人は「明るさはこれくらいでいいですか」と明るい声で言ったという話。要するに明るい気持ちでニコニコしながら話してくれと言われた、そう理解したという笑い話です。

私たちはまた類義語を多く用います。我慢と辛抱なんてそうですね。しかし、これらを正確に用いるには、ふさわしい文脈があるので普段から語感を鍛えておく必要があります。『語感トレーニング』(中村明 岩波新書)から、いくつか出題してみましよう。

・空欄にふさわしい語を入れなさい。

- ① この植物は、日陰でもよく育つ()をもっている。
- ② この馬は()が荒く、とても乗りこなせない。
- ③ まったく彼は、やると決まればすぐさまやらねばいられない()だ。
- ④ 二人の離婚の理由は()の不一致だそうです。

ア 性格 イ 性質 ウ 性分 エ 気性

・空欄にふさわしい語を入れなさい。

「①」とは、他人からこうむった迷惑や被害をその相手に返すことをさし、会話でも文章でも使われるやや古風な漢語である。漢語だけに「②」よりは若干重く響くが、「③」ほど恨みがこもっておらず、「④」というほど大げさではない感じがある。ア 仕返し イ 返報 ウ 報復 エ 復讐

いかがですか。答えは書かなくても辞書を引けばわかりますね。他にも贈呈、進呈、献呈の違いとか、有名人、名士、著名人の使い分けとか、面白い本ですよ。

今週のおすすめ

・東野圭吾 『あなたが誰かを殺した』 (講談社)

久しぶりの加賀恭一郎シリーズ。ガリレオシリーズの最新刊『透明な螺旋』がいまいちの出来で、東野さんも衰えたかと思ったのですが、ちゃんと復活してはりましたわ。セレブたちの避暑地で起こった連続殺人事件。犯人は自首している、凶器も見つかっている。しかし動機が分からない。捜査を進めると犯人が購入したナイフの本数と使用された本数が合わない。ご主人をなくした看護師の女性、その先輩が金森さん。加賀の父親を担当していた看護師さんですな。ファンとしては、おお金森さん、今回も登場してくれましたか、加賀との恋の進展はあるのかないのか、というところ。この事件、犯人は逮捕されているのだが事件の概要がわからない被害者たち。もう一度集まって検証会を行うことに。そこに金森さん経由で頼まれた加賀が出席するといったお話です。加賀の推理によって、犯人には共犯者がいることがわかる。さて、怪しい人だらけの中でどうやって特定するのか。相変わらずの名探偵ぶりでした。

私は共犯者を見つけることはできませんでしたが、エピローグは予想通りの展開でした。最後にもう一度金森さんを出してほしかったけどね。

BGMは シェネル の ビリーヴでした…。